

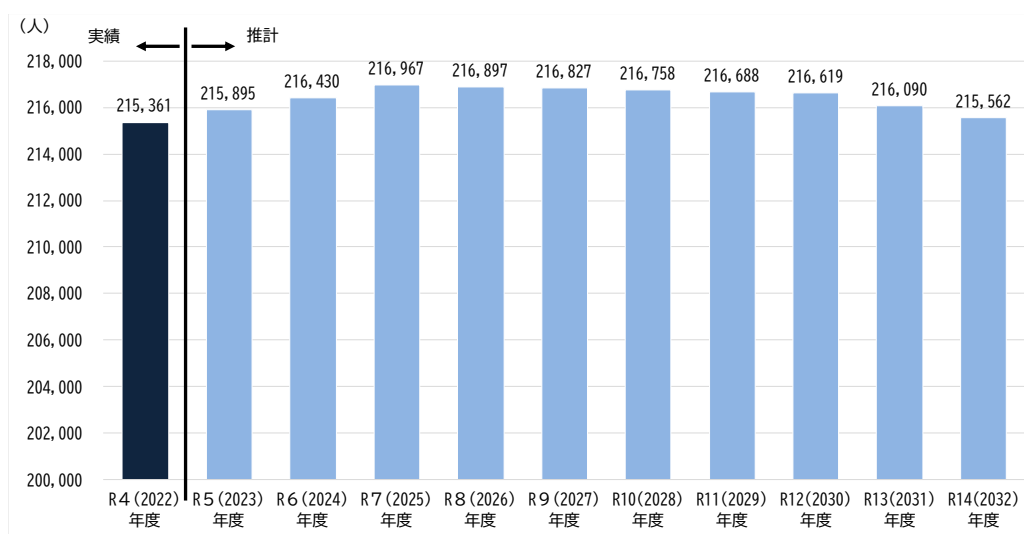
第4章. 計画目標

第1節. 推計

1. 人口推計

東京都が令和2（2020）年3月に更新した「東京都の人口予測」を基に、令和14（2032）年度までの人口を推計しました。区では、令和7（2025）年度までは増加傾向で推移しますが、その後は緩やかに減少していくことが予測されます。

図4-1 人口推計



出典:東京都の人口予測(令和2(2020)年3月)【東京都人口統計課】から推計

2. 現状施策で推移した場合のごみ量推計

現状の施策を維持した場合のごみ量の推計は、以下の手法で実施しました。

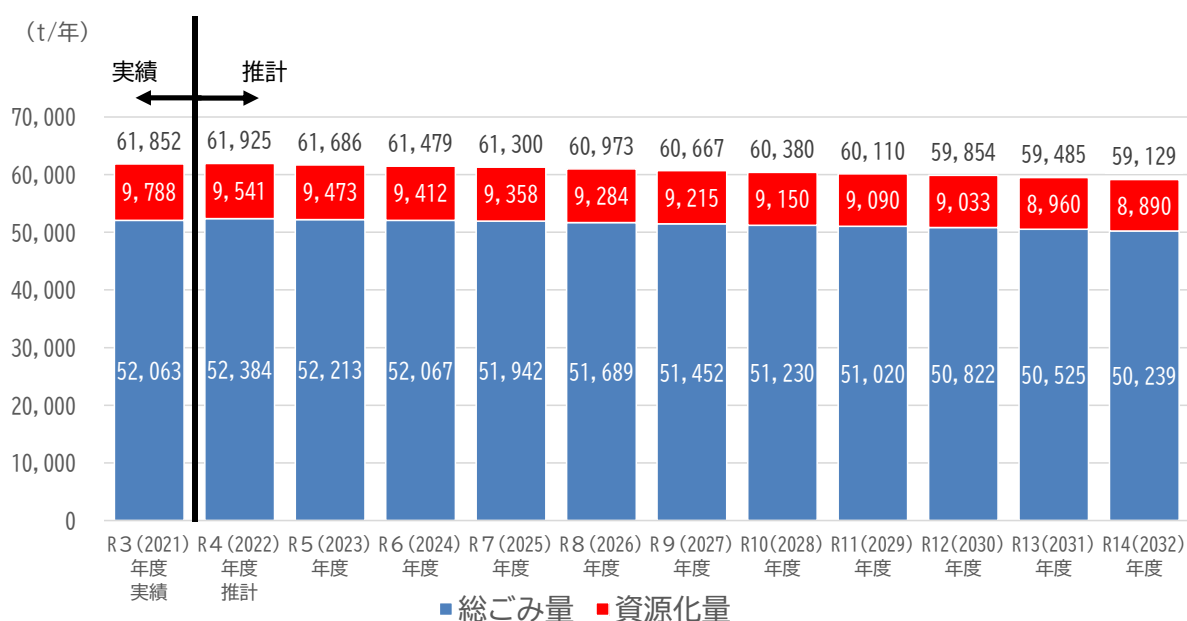
家庭ごみ（区収集ごみ）※、事業系ごみ（持込ごみ）※、資源回収量の各原単位（1人1日当たりの排出量等）を過去10年間（平成24（2012）年度～令和3（2021）年度）の実績値から、「ごみ処理施設構造指針解説」（社）全国都市清掃会議）に基づきトレンド式により推計し、令和4（2022）年度から令和14（2032）年度のごみ量を推計しました。

現状施策を維持した場合でも、人口はほぼ横ばいで推移していきませんが、これまでの区民等の取り組みが反映されることもあり、総排出量は減少傾向で推移していくことが予測されます。

1人1日当たりの総排出量は令和3（2021）年度の783gと比較して、令和14（2032）年度には752gとなり、3.3%の減少になると推計されています。（32ページ図4-5参照）

（15ページに総排出量等の説明をコラムとして掲載しています。）

図 4-2 現状施策で推移した場合の総排出量



第2節. 計画目標

1. 目標

本計画では、下記に記載するごみ減量・資源化に対する取り組みをさらに推進していきます。

(1) 家庭ごみの削減

① 食品ロス*の削減

現状可燃ごみに含まれている食品ロス*は 4.5% (令和 3 (2021) 年度で推定 22.6g/人・日) となっており、今後様々な取り組みを実施することにより、令和 3 (2021) 年度と比較し、中間年度の令和 9 (2027) 年度には約 10% (令和 3 (2021) 年度比で推定 2.3g 減)、最終年度の令和 14 (2032) 年度には約 20% (令和 3 (2021) 年度比で推定 4.5g 減) を削減します。

② プラスチックごみの削減

現状可燃ごみに含まれているプラスチックごみは 16.1% (令和 3 (2021) 年度で推定 80.8g/人・日) となっており、今後様々な取り組みを実施することにより、令和 3 (2021) 年度と比較し、中間年度の令和 9 (2027) 年度には約 12.5% (令和 3 (2021) 年度比で推定 10.1g 減)、最終年度の令和 14 (2032) 年度には約 25% (令和 3 (2021) 年度比で推定 20.2g 減) を削減します。

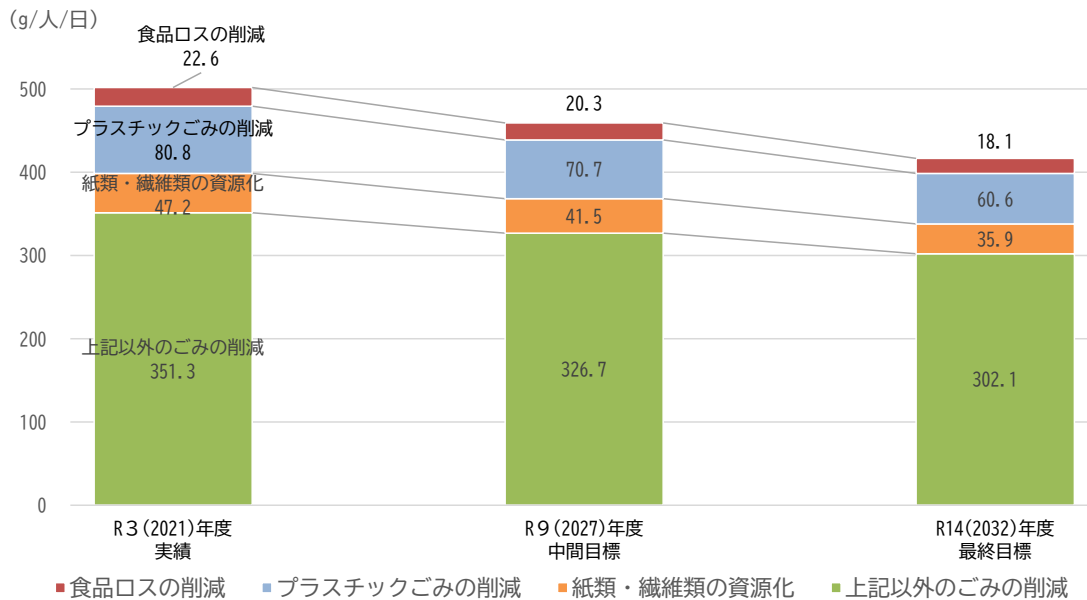
③ 紙類・繊維類の資源化

現状可燃ごみに含まれている紙類・繊維類は9.4%（令和3（2021）年度で推定47.2g/人・日）となっており、今後様々な取り組みを実施することにより、令和3（2021）年度と比較し、中間年度の令和9（2027）年度には約12%（令和3（2021）年度比で推定5.7g減）、最終年度の令和14（2032）年度には約24%（令和3（2021）年度比で推定11.3g減）を資源化します。

④ ①～③以外のごみの削減

現状可燃ごみに含まれている①～③以外のごみは令和3（2021）年度で推定351.3g/人・日となっており、今後様々な取り組みを実施することにより、令和3（2021）年度と比較し、中間年度の令和9（2027）年度には約7%（令和3（2021）年度比で推定24.6g減）、最終年度の令和14（2032）年度には約14%（令和3（2021）年度比で推定49.2g減）を削減します。

図4-3 家庭ごみ(区収集ごみ)* (可燃ごみ)の削減目標



(2) 事業系ごみの削減

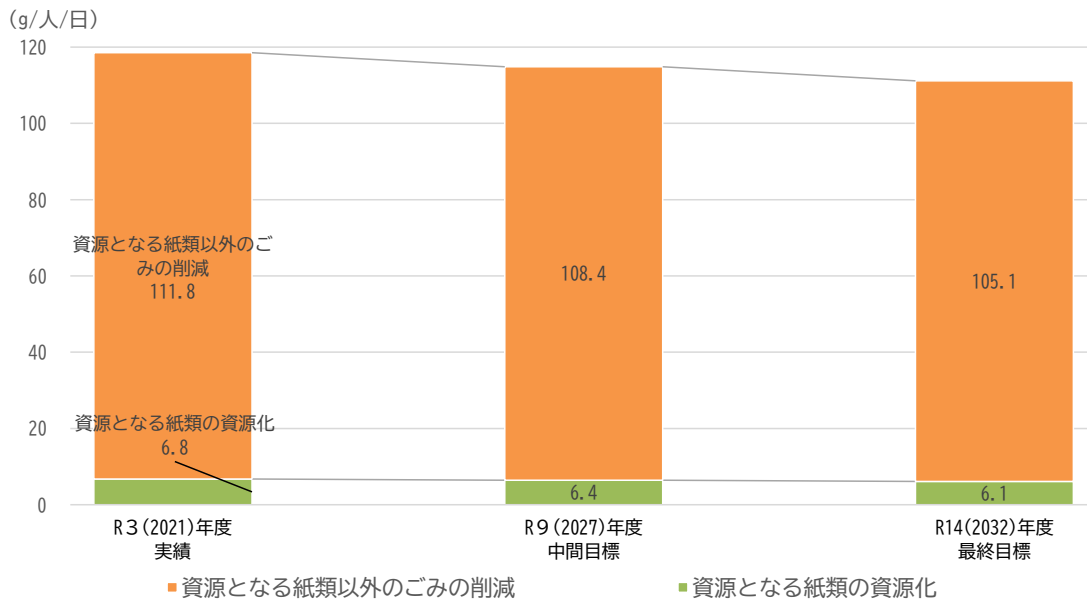
① 資源となる紙類の資源化

現状可燃ごみに含まれている資源化できる紙類は5.7%（令和3（2021）年度で推定6.8g/人・日）となっており、今後様々な取り組みを実施することにより、令和3（2021）年度と比較し、中間年度の令和9（2027）年度には約5%（令和3（2021）年度比で推定0.3g減）、最終年度の令和14（2032）年度には約10%（令和3（2021）年度比で推定0.7g減）を削減（資源化）します。

② 資源となる紙類以外のごみの削減

現状可燃ごみに含まれている資源化できる紙類以外のごみは令和 3（2021）年度で推定 111.8g/人・日となっており、今後様々な取り組みを実施することにより、令和 3（2021）年度と比較し、中間年度の令和 9（2027）年度には約 3%（令和 3（2021）年度比で推定 3.4g 減）、最終年度の令和 14（2032）年度には約 6%（令和 3（2021）年度比で推定 6.7g 減）を削減します。

図 4-4 事業系ごみ(持込ごみ)※(可燃ごみ)の削減目標



コラム

プラスチック削減による温室効果ガスの削減

廃棄物分野における脱炭素化に向けては、プラスチックごみの焼却を極力少なくすることが必要であることから、プラスチックごみの削減がとても重要です。

プラスチックをごみとして燃やすのではなく、資源としてリサイクルした場合の CO₂ 削減効果は、削減量 1t あたり 1.47t-CO₂ となります。(出典:東京都環境局HP「プラスチック製容器包装」)

令和 14(2032)年度に 1 人 1 日当たり 20.2g 削減できれば、荒川区では年間で 1,589t のプラスチックごみが削減できます。CO₂ の削減量に換算すると、**2,336t の CO₂ が削減** できます。

これは、約 265ha (東京ドーム 56.4 個分) のスギの人工林が 1 年間に吸収する CO₂ 量に相当します。(林野庁の試算によると、スギ人工林 1ha の年間 CO₂ 吸収量は 8.8t です。)

最近では生産者の努力(責任)によりプラスチック容器の軽量化が図られてきている一方で、プラスチックごみの収集運搬時における飛散防止のための圧縮作業や、重量の割に体積が大きいことによる積載容量の変化等といった新たなコストも生じています。

これからは消費者である私たちが SDGs の観点からも、軽量化されたプラスチック容器を選ぶとともに、プラスチックごみ排出時の圧縮の徹底や CO₂ 削減効果も意識しながら、地球環境に貢献していくことが重要かもしれません。

2. 目標達成によるごみ量・資源回収量の推移

本計画では、区民1人1日当たりの総排出量を令和14(2032)年度までに、令和3(2021)年度比(783g)で12.4%削減し686gとすることを目標とします。

表4-4 数値目標

評価項目	単位	令和3 (2021)年度 (基準)	令和9 (2027)年度 (中間目標)	令和14 (2032)年度 (最終目標)
総排出量	g/人・日	783g	732g (▲51g)	686g (▲97g)
総ごみ量 (不燃・粗大ごみの資源化量を含む)	g/人・日	659g	611g (▲48g)	564g (▲95g)
(参考)家庭ごみ(区収集ごみ)*	g/人・日	541g	496g	453g(▲88g)
(参考)事業系ごみ(持込ごみ)*	g/人・日	119g	115g	111g(▲8g)
資源回収量 (不燃・粗大ごみの資源化量を含む)	g/人・日	144g	139g (▲5g)	140g (▲4g)
リサイクル率	%	18.4%	19.1% (+0.7ポイント)	20.4% (+2.0ポイント)

注1:総排出量 = 総排出量(総ごみ量+資源回収量) ÷ 人口 ÷ 365(366)日

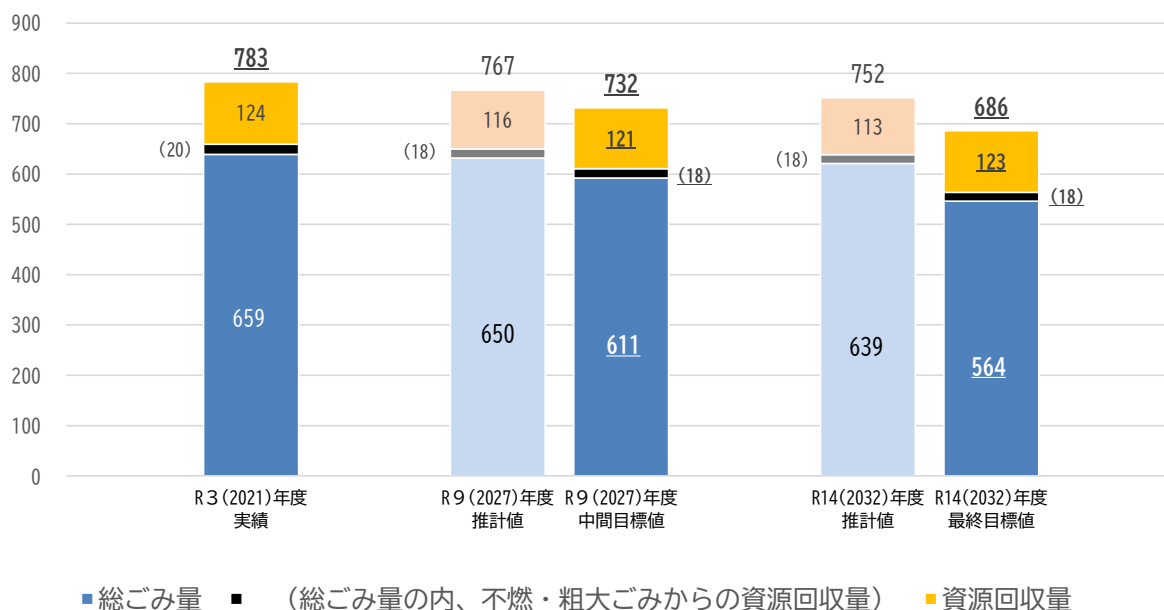
注2:リサイクル率(%) = (資源回収量) ÷ (総排出量) × 100

注3:15 ページに総排出量、総ごみ量、資源回収量の説明をコラムとして掲載しています。

注4:小数点以下を四捨五入しているため、表記の合計が合わないことがあります。

図4-5 推計値と目標値の比較

(g/人/日)



注:推計値とは、現状施策で推移した場合のごみ量推計値のことです。

コラム

1人が1日当たり、家庭でごみを88g減量するためには何をすればよいの？

令和3(2021)年度比で1日1人当たり88gの家庭ごみ(32ページ表4-4の家庭ごみ(区収集ごみ)※参照)を削減するためには、次のような量を減らしていく必要があります。

ここでは、わかりやすいように1カ月でどの程度減量すればよいのかを示します。

1カ月で約 **2.6kg**の減量を目指しましょう！

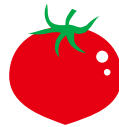
具体的には、野菜等はばら売りで買うようにして3個分のロスを減らし、**約450g**の減量を目指しましょう。



にんじん



じゃがいも



トマト

1個当たり約150gの野菜
 $150g \times 3$ 個
=450g

また、ペットボトル20本分を買うのを控えてマイボトルにし(25g×20本)、コンビニ弁当10食分を自炊に切り替え(空容器15g+フォーク等5g×10回)、レジ袋をエコバックに変え(4g×30回)て、**約820g**の減量を目指しましょう。



ペットボトル
(25g×20本)
500g



弁当容器 使い捨てフォーク等
(15g+5g)×10回
200g

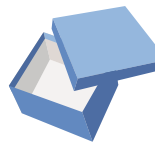


レジ袋
(4g×30回)
120g

また、普段可燃ごみに捨てていたポストिंगチラシ(1枚約16g×10枚)や空き箱(1個約25g×10個)を資源回収に出すことによって、**約410g**の減量を目指しましょう。



ポストिंगチラシ
(16g×10枚)
160g



空き箱
(25g×10個)
250g

そのほか、普段からの生ごみの水切りの徹底(1回約25g×30日)や詰替商品の利用(詰替製品1回当たり約60gの削減×3回程度)することによって、**約930g**の減量を目指しましょう。



水切りの徹底
(25g×30日)
750g



詰替商品の利用
(60g×3回)
180g

注:世帯人数が少ないほど1人当たりのごみの量が多い傾向にあります。ここに挙げた例は一人暮らしの方の目安であり、家族構成が多いほど1人当たりの削減量は少なくなります。(19ページの世帯人員別排出状況参照)